

# 「11ぴきのねこのまちづくり」事業の推進による交流人口拡大プロジェクト (青森県三戸町)

## ○事例概要

- ・当町出身の漫画家・馬場のぼる氏の人気絵本「11ぴきのねこ」のまちづくりを平成23年度から進めてきたが、財政が厳しく予算が限定的であったため、スピード感をもって事業を前進させることができなかった。
- ・ふるさと納税をまちづくりに有効に活用した結果、毎年、寄附者の約4割が「11ぴきのねこのまちづくり」を支持してくれることとなり、事業を劇的に前進させることができるようになった。



## ○寄付実績

平成30年度	71,899千円
令和元年度	102,249千円

## ○事業効果等

- ・「11ぴきのねこ」石像設置事業を2013年度から開始し、年1体ペースの設置だったが、ふるさと納税の活用により、2017年度から2体ペースで進めることができるようになった結果、2020年3月末、ついに「11ぴき」コンプリートすることができた。
- ・2019年10月、「11ぴきのねこ」ラッピングトレインの運行（青い森鉄道、青森～三戸～盛岡）を実現させた。記念セレモニーには全国からファンが訪れた。
- ・費用面で開催が叶わなかった大阪の劇団による人形劇「11ぴきのねこ」公演を2018年10月に開催することができた。さらに、2019年7月、劇団スタッフが小学校3年生に出前授業を実施、2度目となる9月の人形劇公演には、遠くは京都府など、全国のファンも駆けつけ、楽しんでいただくことができた。

## ○事業の評価

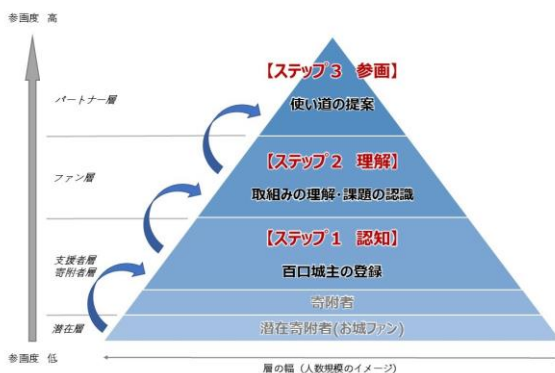
- ・11ぴきのねこを活用した魅力的な事業に関心が高まり、町のPRや町づくりによる交流人口・関係人口の拡大があらわれている。

# 継続寄附による「百口城主」市政参画プロジェクト

(福井県坂井市)

## ○事例概要

- ・平成 28 年より坂井市丸岡町にある「丸岡城」に対し寄附金を募っているが、丸岡城をより魅力的にする具体的な事業内容に欠けているという課題がある。
- ・丸岡城に対する継続的な寄附者を関係人口として位置づけ、関係人口の持つ外からの視点を元に事業をより具体化し、その内容に共感する寄附者からの支援を全国から広く募る『百口城主プロジェクト』に取り組んだ。
- ・継続して寄附できる仕組み「自動継続寄付サービス」を活用し、全国のお城ファンをターゲットに丸岡城に関する事業への継続的な支援者（以下、百口城主）を募っている。
- ・継続した月数と寄附金額に応じて「城主ポイント」が貯まり、ポイントが貯まると「奉行」⇒「家老」⇒「城主」と階級が上がる仕組みを導入した。



## ○寄付実績

令和元年度 812 千円

## ○事業効果等

- ・令和元年 11 月 16、17 日に百口城主限定で丸岡城周辺の課題を探るツアーおよびツアーを踏まえ寄附金の使い道を提案するワークショップを開催した。
- ・百口城主 5 組 7 名がツアーに参加し、市民 14 名とワークショップを行い、寄附金の使い道に関する提案を 16 件いただき、うち 2 件を具体的な活用方法として決定した。

## ○事業の評価

- ・寄附者を関係人口として事業に参画させるプロジェクトにより、長期的な関係構築を図っている。
- ・寄付者のイベント参加、ポイント数のランクアップや、わかりやすい特典、寄付金の使途の提案ができるなど面白い仕組みが構築されている。

## 国宝「山鳥毛（さんちょうもう）」里帰りプロジェクト

（岡山県瀬戸内市）

### ○事例概要

- ・瀬戸内市長船町を中心とした地域はかつて日本刀の生産量全国一を誇り「日本刀の聖地」と呼ばれてきたが、備前刀の生まれ故郷である瀬戸内市には国宝はおろか重要文化財の刀剣も残されていない。また、市内の刀工などの職人もわずか数名となっており、伝統技術の継承が危ぶまれている。
- ・戦国武将・上杉謙信の愛刀である国宝の備前刀「太刀無銘一文字（号・山鳥毛）」の所有者から譲渡したい旨の相談があり、地方に優れた文化財を残すことで地域活性化に資するとともに、日本刀の価値を広め、刀工達の作刀意欲と技術の向上となるまたとない機会であることから、クラウドファンディングにより全国の刀剣を愛する方々から寄附を募り国宝「山鳥毛」の購入を目指した。
- ・一口佩刀という共同オーナー制度で瀬戸内市と共に山鳥毛を支える方を募集した。



### ○寄付実績

平成30年度	326,632千円
令和元年度	554,324千円

### ○事業効果等

- ・プロジェクト期間中に山鳥毛をお借りして市内博物館で一時里帰り展を行った際は7日間で全国から5,541人が訪れ、同市の交流人口が拡大した。
- ・平成30年11月のプロジェクト開始から令和2年3月末まで17,000件、8.8億円を超える寄附が集まり、無事山鳥毛を購入することができた。

### ○事業の評価

- ・国宝の里帰りは、伝統技術の継承と地域活性化の躍進につながっている。
- ・一時里帰り展には全国から多くの刀剣ファンが訪れており、交流人口の拡大に寄与している。

# 沖縄県立本部高校後援会と本部町の連携による本部高校の魅力化支援 (沖縄県本部町)

## ○事例概要

- ・沖縄県立高等学校編成整備計画（平成 23 年度策定）において、沖縄県立本部高校は、志願率の低下や恒常的な定員割れなどが問題視され、平成 28 年度で廃校になる方針だった。
- ・町内唯一の県立高校の存続を地域住民や在校生が切望し、その実現のため、本部町として特色ある学校づくりが求められた。
- ・本部高校生の学習支援として平成 24 年度より本部高校チャレンジ塾を開講し、塾生の意向に沿った学習アドバイスや検定取得への支援、大学入試対策等の取組みを実施。
- ・ふるさと納税を活用し、生徒の資格・検定試験の受検料補助や本部高校チャレンジ塾の受講料の全額補助、教員の授業力向上を目的とした先進校視察を支援。



## ○寄付実績

平成 30 年度	2,625 千円
令和元年度	8,021 千円

## ○事業効果等

- ・チャレンジ塾開講から年々生徒数も増え、生徒が意欲をしっかりと持ち、学習に取り組んでいる。当初の目的でもあった町内唯一の県立高校の存続も実現している。
- ・グローバル人材の育成の一環として、毎年 1 月に開催されるもとぶ八重岳桜まつりにおいて、外国人観光客の方々に対し、独自に作成した町観光パンフレットを配布し、英語や韓国語で観光PRを行っている。

## ○事業の評価

- ・町唯一の高校の存続、学習の支援、進学の実現等の課題解決に加え、グローバルな人材育成の町づくりがなされている。
- ・高校の定員割れなど厳しい環境下でありながら特色ある学校づくりがされており、寄附者の思いに応え、未来を担う地元子どもたちのために寄付金を活用している。